【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年6月19日(2023.6.19)

【公開番号】特開2022-37758(P2022-37758A)
【公開日】令和4年3月9日(2022.3.9)
【年通号数】公開公報(特許)2022-042
【出願番号】特願2020-142059(P2020-142059)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ 13/534(2006.01)
Ａ６１Ｆ 13/535(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ 13/534１００
Ａ６１Ｆ 13/534１１０
Ａ６１Ｆ 13/535１００

【手続補正書】
【提出日】令和5年6月8日(2023.6.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
着用者の腹側から股間部を介して背側に延びる縦方向と該縦方向に直交する横方向とを有し、該股間部に配される股下部と、該股下部よりも着用者の腹側に配される腹側部と、該股下部よりも着用者の背側に配される背側部とに区分され、体液を吸収保持する吸収体と、該吸収体の肌対向面側に配された表面シートとを具備する吸収性物品であって、
前記吸収体は、第１層と第２層とが厚み方向に積層された積層構造を有し、
前記第１層では、繊維材料の積繊体に吸水性ポリマーが担持されており、
前記第２層では、厚み方向に対向配置された２枚の基材シートの間に吸水性ポリマーが配置されており、
前記第２層は、少なくとも前記股下部に、前記積層構造を構成する前記第１層の前記縦方向に沿う側縁から前記横方向の外方に延出する股下延出部を有し、前記吸収性物品の着用中に該股下部が着用者の両脚に挟まれて前記横方向に圧縮されたときに、その圧縮の影響を受けた該股下延出部が該第１層の該側縁に沿って折れ曲がり可能になされており、
少なくとも前記股下部において、前記股下延出部と前記縦方向において同位置にある領域は、前記第１層が前記第２層に比べて吸水性ポリマーの坪量が大きく、且つ該第２層が該第１層に比べて吸水性ポリマーの密度が高く、
前記第２層における前記積層構造を構成する部分は、前記股下延出部に比べて前記吸水性ポリマーの坪量が大きい、吸収性物品。
【請求項２】
前記股下延出部の横方向長さは、前記第１層における該股下延出部と前記縦方向において同位置にある部分の厚みに比べて長い、請求項１に記載の吸収性物品。
【請求項３】
前記第２層は、前記第１層の非肌対向面側に配置されている、請求項１又は２に記載の吸収性物品。
【請求項４】
前記股下延出部は、前記吸収性物品の着用中に前記股下部が着用者の両脚に挟まれて前

記横方向に圧縮されたときに、該着用者の股間部に向かって起立するように折れ曲がり可能になされている、請求項１～３の何れか１項に記載の吸収性物品。
【請求項５】
前記表面シートは、前記積層構造から前記股下延出部にわたって前記横方向に延在し、該表面シートの肌対向面に、着用者の肌側に向かって突出する複数の凸部を含む凹凸領域が形成されており、
前記吸収性物品の着用中に前記股下延出部が着用者の股間部に向かって起立するように折れ曲がったときに、その起立した股下延出部と前記第１層との間に、前記表面シートの前記凸部が存在するようになされている、請求項４に記載の吸収性物品。
【請求項６】
前記表面シートの前記凹凸領域は、平面視で前記積層構造と重なる第１領域と、平面視で前記股下延出部と重なる第２領域とを有し、
前記第１領域の凸部は、前記第２領域の凸部に比べて突出高さ又は面積が大きく、
前記吸収性物品の着用中に前記股下延出部が着用者の股間部に向かって起立するように折れ曲がったときに、その起立した股下延出部と前記第１層との間に、前記第２領域の凸部が存在するようになされている、請求項５に記載の吸収性物品。
【請求項７】
前記第２層は、前記吸収体の隅部に位置し、前記股下延出部とは繋がっていない隅部延出部を有する、請求項１～６の何れか１項に記載の吸収性物品。
【請求項８】
前記第２層は、前記第１層の前記背側部側の縦方向端よりも前記縦方向の外方に延出する縦方向延出部を有し、該縦方向延出部と前記股下延出部とで平面視Ｕ字様形状の延出部を形成している、請求項１～６の何れか１項に記載の吸収性物品。
【請求項９】
前記第１層の前記腹側部側の縦方向端部の前記縦方向に沿う両側縁は、前記第２層における該縦方向端部と該縦方向において同位置にある部分の該縦方向に沿う両側縁よりも前記横方向の外方に位置している、請求項８に記載の吸収性物品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５９】
＜表面シートの凸部の面積の測定方法＞
測定対象の表面シートから、縦方向長さ５０ｍｍ及び横方向長さ２０ｍｍの平面視四角形形状を切り出して試験片とする。その測定片の肌当接面側を無荷重状態で、顕微鏡（例えば、ＫＥＹＥＮＣＥ社製マイクロスコープ、ＶＨＸ－１０００）を用いて観察倍率１０～１００倍で観察する。次いで、１個の凸部を取り囲むように形成された複数の凹部それぞれの重心を直線で結び、該直線で囲まれた平面視多角形形状の領域の面積を該凸部の面積とし、画像解析ソフトを用いて、該凸部の面積を測定する。表面シートに突出高さ又は面積が異なる複数種類の凸部が存在する場合は、各凸部（例えば前述したおむつ１Ｄの表面シート３Ｂの場合は凸部３０Ａ，３０Ｂ）について前記と同様の手順で面積を測定する。１つの対象領域（例えば第１領域３２又は第２領域３３）から任意に選択した３つの領域それぞれについて、前記の手順で凸部の面積を測定し、それら３つの領域の測定値の平均値を、該対象領域の凸部の面積とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】

【００６０】
＜表面シートの凸部の単位面積当たりの数の測定方法＞
　測定対象の表面シートから、縦方向長さ５０ｍｍ及び横方向長さ２０ｍｍの平面視四角形形状を切り出して試験片とする。試験片を顕微鏡（例えば、ＫＥＹＥＮＣＥ社製マイクロスコープ、ＶＨＸ－１０００）を用いて観察倍率２０～１００倍で観察し、試験片が有する凸部の数を測定する。その測定値を試験片の面積（１０００ｍｍ^2）で除したものを、測定対象の表面シートの凸部の単位面積当たりの数とする。